

## 記号の説明

| 記号                                    | 名称   | 説明  |
|---------------------------------------|--|---|
| $I_s$                                 | 構造耐震指標   | 建物の「強度」、「粘り強さ」、「建物形状等のバランス」及び「経年劣化」により算定した耐震性能を数値で表した指標   |
| $I_{SO}$                              | 構造耐震判定指標   | 建物の耐震性能を判定するための指標(一般的に0.6)  |
| $C_T \cdot S_D$<br>$C_{TU} \cdot S_D$ | $C_T$ : 累積強度指標<br>$C_{TU}$ : 終局時累積強度指標<br>$S_D$ : 形状指標 | 鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の建物について、建物の「粘り強さ」を過剰に評価すると(地震時の倒壊は免れても)外装材の脱落等が生じる危険性が大きくなるため、その防止を目的として一定の「強度(堅さ)」を確保するための指標 |
| $q$                                   | 保有水平耐力に係る指標  | 建物に一定の「強度(堅さ)」を確保するための指標  |
| 上部構造評点                                | 上部構造評点   | 木造の建物について、壁・柱の耐力( $Q_u$ )・配置( $eKfl$ )・劣化度( $dk$ )により算出した保有する耐力を必要耐力で除した値であり、各階・各方向(X・Y)における最小値(目標値は一般的に1.0)        |
| $Z$                                   | 地震地域係数(地域指標)   | 建物の所在地における過去の地震の記録に基づく震害の程度及び地震活動の状況その他地震の性状に応じて1.0~0.7までの範囲内において国土交通大臣が定める数値(堺市は1.0)                               |
| $R_t$                                 | 振動特性係数   | 建物の固有周期および地盤の種別に応じた建物の振動特性により、地震力の値を変化させる係数   |
| $G$                                   | 地盤指標   | 建物の所在地において、地震の揺れが増幅される恐れがある地盤について、建物の耐震性能を割増するための補正係数   |
| $U$                                   | 用途指標   | 災害拠点等、地震後も継続利用の必要がある建物について、耐震性能を割増するための補正係数   |
| $W$                                   | 木(造)   | 木により構成された建物の構造  |
| $S$                                   | 鉄骨(造)  | 鉄骨により構成された建物の構造   |
| $RC$                                  | 鉄筋コンクリート(造)  | 鉄筋コンクリートにより構成された建物の構造   |
| $SRC$                                 | 鉄骨鉄筋コンクリート(造)  | 鉄骨鉄筋コンクリートにより構成された建物の構造   |